十八史略

作者

曽先之

一二四一年頃～一三三二年頃。字は孟参（一説に、従野）、号は立斎。廬陵（江西省吉安市）の人。一説に、吉水（現在の江西省吉水県）の人ともいう。咸淳元（一二六五）年、進士に及第した。地方官を歴任したが、宋の滅亡後は隠居して元に仕えず、九十二歳で卒したといわれる。

彼の故郷の長江南部は、異民族支配に抵抗して民族文化の伝統を守ろうとする気風が強く、いわゆる「江南の処士」たちが活躍していた。科挙が廃止され、伝統文化が危機にさらされている中で、曽先之が初学者のために民族の歴史を伝えようとしたのも、このような気風と関係があるように思われる。このように「十八史略」は初学者のために作られたので、「郷塾訓蒙」（初学の児童の教科書）の史籍として流行した。しかし最近では、明代に通行したテキストと原本との異同から「十八史略」はむしろ元朝の漢人懐柔のための文教政策に呼応して書かれたものとする説も提出されている。

出典

十八史略

元の曽先之の撰であるが、二巻本と七巻本がある。曽先之生前刊行の二巻本には「古今歴代十八史略」、「増修宋季古今十八史略」がある。七巻本には陳殷が音釈を加え、後これを劉剡が補足し、王逢が点校した「立斎先生標題解註音釈十八史略」がある。今日これが一般に通行し、「十八史略」の名で呼ばれている。「十八史略」とは十八史の要略の意味で、太古から南宋滅亡まで四千年の史実を簡略に記したものである。その十八種の史書とは、次のようなものである。

1 史記　2 漢書　3 後漢書　4 三国志　5 晋書　6 宋書　7 南斉書　8 梁書　9 陳書　10 後魏書　11 北斉書　12 後周書　13 隋書　14 南史　15 北史　16 新唐書　17 新五代史　18 続資治通鑑長編・続宋編年資治通鑑

実際には十八の史書にない話も採録されていて、例えば、堯・舜・禹の時代は多く材料を「荘子」「列子」「淮南子」「韓非子」などの諸子類に求めている。また、直接正史から取ったものよりも、宋の司馬光の「資治通鑑」から引用したものが多い。ところで、宋代の史料については「宋史」（一三五年完成）はまだ完成し

ていないので用いられていない。そこで18の二つの史書を一つに数えて史料とした。しかし、この二つには南宋滅亡後に至る五十余年の記事は記載されていないので、ここについては何か別のものを用いたと考えられているが定説はない。

中国の正史、すなわち「史記」から「明史」までに至る二十四史（「新元史」を含めて二十五史ということもある）は、紀伝体の形態をとっており、本紀（帝王の伝記）・世家（諸侯の伝記）・列伝（個人の伝記）と分けて記録されている。しかも時代が下がるに従って、史書の量が激増し、時代の流れを把握するという面では非常に困難になってきていた。そのため、宋・元の頃から年代順に史実を記した「資治通鑑」などの編年体の史書が数多く作られるようになった。「十八史略」も編年体の史書の一つである。これは、太古から南宋滅亡までの史実を初学者向けに簡略に記しているが、その簡略さは、抽象的に概説したものではなく、要点だけを具体的に示すという方法によっているので、本書を読めば、歴代治乱の大体、将相・賢哲の行跡、故事・格言の典拠について、初学者の知っているべきことが興味深く網羅されており、歴史のみならず、文学・思想の書を読むうえでの必須の基礎知識を得るにも最も便利な書物である。本単元で「十八史略」から教材を選定した理由の一つがここにある（「単元のねらい」参照）。

「十八史略」が中国全地域で読まれたかという点については問題であるが、江南の地方で読まれたことは事実のようだ。これに対し、日本には室町時代に伝来して以来、手軽な中国史として歓迎され、特に江戸時代には「唐詩選」「論語」と並んで初学者の必読書として盛行した。明治以後も小中学校の東洋史・漢文の教科書で親しまれ、その流れが今日の漢文教育の場まで続いてきているわけである。本教科書は明治書院「新釈漢文大系　十八史略上」によった。

参考文献

❊ **教師用**

▽**注釈書**

「十八史略」（漢文大系）　冨山房　明四十三（昭四十八再刊）
「十八史略・史記・漢書」林秀一　学燈社　昭四十一
「十八史略」（新釈漢文大系）林秀一　明治書院　昭四十二
「十八史略」（中国古典新書）市川任三　明徳出版　昭四十三
「傍訳漢文史伝（十八史略史記）」中里義夫・川村廣通　明治書院　昭四十六
「十八史略」丸山松幸他　徳間書店　昭五十
「十八史略」（中国の古典）今西凱夫　学習研究社　昭六十
「十八史略」（鑑賞中国の古典）竹内弘行　角川書店　平元
「研究資料漢文学８　歴史Ⅱ」監修鎌田正・田部井文雄　明治書院　平五

❊ **生徒用**

「小説十八史略　（一）～（六）」陳舜臣　毎日新聞社　昭五十六～六十二
「語法詳解十八史略」（古典解釈シリーズ）新開高明　旺文社　昭五十八
「十八史略詳解（上）（下）」辛島驍・多久弘一

明治書院　平十六
「十八史略」（角川ソフィア文庫　ビギナーズクラシックス中国の古典）竹内弘行　角川学芸出版　平二十四